



大宮まちなみ新聞

Vol.001
2019年9月1日発行

OMIYA LIBRARY

緑のトンネル 氷川参道

大宮景20

平成十八年に市民が選定した「大宮二十景」について、毎回ご紹介します。まずは、大宮図書館が隣接している「氷川参道」から。

氷川参道は、氷川神社の一の鳥居から三の鳥居までの約2kmの並木道です。参道の両側にはケヤキ、クスノキ、エノキ、スタジイなど三十種以上、約七百本の樹木が植えられ、このうち巨樹十九本が市の天然記念物に指定されています。

今年の四月二十五日から一部の区間が歩行者専用化されるなどの変更もありました。

今回、この氷川参道について、都市局都心整備部氷川参道対策室の方に直接お話を聞いてみました。

——氷川参道対策室のお仕事ではどんなことをされていますか。

現在大きく三つの事業を行っており、一つ目が歩行者専用事業。二つ目が神社から無償でお借りしている平成ひろばの契約更新。三つ目が一の鳥居から中央通りの間であじさいなどの剪定作業や植栽などの活動をしている氷川の杜まちづくり協議会の、運営支援などを行っています。

——四月から歩行者専用に変更になりましたが、変更になった経緯などありますか。

旧大宮市時代から歩道がなくて危ない、路上駐車が多いなどの交通問題や並木の保全などの問題があがっており、改善しようと平成七年に氷川の杜まちづくり協議会が設立し、問題解決に向け動き始めたことが始まりです。

歩行者専用化は長期の目標として、安全な歩行空間の確保を目指した暫定整備をすることから始め、一の鳥居から大宮中央通線までを三区間にわけ歩車分離工事を実施し、平成二十一年七月に竣工、車の一方通行化と片側歩道の整備が完了しま

した。

また、交通量が多いと感じていても実際にどれくらいの量なのかデータがなかったため、交通量調査を行い、南大通東線から参道に入る車が一番多く、ほぼ半数の車が中央通りまで通過するという結果が分かりました。氷川参道は車が通過するための道ではないとまずまず歩行者専用にするべきだと住民の方々の認識が強くなりました。実験やシミュレーションを行い、説明会や広報物「ひかわ参道だより」などで近隣家屋にポスティングするなど地域のみなさんに告知した上で、アンケートを取りました。この結果によつては歩行者専用化反対の意見が多ければ断念しようという気持ちでしたが、結果として八十四%の方が歩行者専用化を実施すべきという内容でした。

これをもって歩行者専用化にしようという警察に今までのデータを報告し、代替道路の氷川緑道西通線が相互通行化する四月二十五日に合わせ、歩行者専用の道となりました。

——歩行者専用になってからその後の反響はどうでしょうか。

驚いたことに止めた初日に反対などの問い合わせが一件もありませんでした。むしろ歩行者専用になってよかったというお声をいただきました。

——担当者からみての参道の魅力や見どころを教えてください。

新緑の時期など、これまでは車が多く走っていたため西側の新緑が遠目にしか見えなかったのですが、歩行者専用になり、参道の中央部分を歩きながら両側の新緑や花を近くで眺められるようになりました。車が行き交い、ゆっくり散策するものもこれまでは難しいことでした。しかし、今では参道の両脇の植栽をながめながらゆっくり歩けるようになり、緑を感じやすくなったことが魅力だと思います。

——今後の参道の管理について、課題や思っていることなどありますか。

課題として考えているのは、自転車ですね。自転車も参道を通れるようになっていますが、運転のマナーが悪く危険という声が上がっています。またペットの糞の処理ができていないなどの問題が出てきており、どう改善するかが今後の課題です。

一の鳥居の手前には「是より十八丁」という標識が建っています。

参道を、一丁、二丁と「丁石」を見つけながら、また巨樹を探しながら散歩するのも楽しいものです。より近くで緑を感じられるようになった氷川参道を歩いてみませんか？
新しい発見があるかもしれません。

『太宰治』

『人間失格』は太宰治の人生を色濃く反映した自伝的な小説とされ、遺書のような小説とされています。



『人間失格』の執筆が進まず困っていた太宰は、静かに書ける場所を求め、一九四九年四月二十九日から五月十二日までの間、大宮の小野沢清澄氏の家に滞在します。その間ほとんど部屋に閉じこもって原作を書いていた太宰ですが、氷川参道を歩いたり、参道近くにあった銭湯「松の湯」に通っていました。当時の参道には両脇に闇市があり、太宰はそこであんなに肝煎などをかうなど散策したようで、無口な太宰が小野沢氏に「ご主人、今日は珍しい魚が出ていましたよ」と嬉しそうに話すこともあったそうです。

大宮滞在の十日間、太宰は『人間失格』を完成させました。「次の作品の『グッド・バイ』の続きはここで書きたいから部屋をあけておいてください」と太宰はいささし、大宮を去りました。

それから一か月後の六月十二日、太宰はひとり大宮にやってきて通院していた宇治病院や小野沢宅を訪問しており「グッド・バイ」がちょっとも書けなくてと話していたそうです。その翌日の十三日、太宰は愛人・山崎富栄と玉川上水で入水自殺を図りこの世を去りました。

太宰が何を思っていた大宮にきたのか、今となってはその真意はわかりませんが、

参考文献

『さいたま文学散歩』さいたま市立教育研究所編　さいたま市教育委員会
『大宮文学散歩―ふるさとと面影―』大宮市立西部図書館編　大宮市教育委員会
『太宰治と歩く文学散歩』木村綾子著　角川書店

文学資料コーナー 企画展示

七月十六日(火)～九月十五日(日)まで
「大西民子と、ふるさと岩手」
九月十六日(月)～十一月十五日(金)まで
「現代短歌の系譜―明星派を中心に―」(仮)

児童コーナーからの お知らせ

★にちようびのおはなし会★

3才から小学2年生のお子さんと保護者の方を対象に、おはなしや絵本・手遊びを親子で一緒に楽しむ会です
毎週日曜日　11:00～11:30
(事前の申し込みは必要ありません)

★あかちゃんおはなし会★

毎月第2・第4水曜日　11:00～11:30
内容: わらべうたや絵本の読み聞かせなど
(終了後に交流タイムがあります)
定員: 15組(申込先着順)
申込方法: 電話(643-3701)または来館にて

★育児コンシェルジュ★

第1・3水曜日　10時～13時　2階児童書コーナー
子育てに関する本のご案内や、お子さま連れの方への図書館利用のお手伝いなどをいたします

★一時託児サービス実施時間★

毎週金曜日　10時～13時　おはなしのへや
10:00～11:00　11:00～12:00　12:00～13:00
各回1時間の入れ替え制
当日、児童カウンターにて受付
(さいたま市図書館利用券が必要です)

わたしの好きなえほん



私の好きな絵本は佐野洋子(作・絵)さんの「１００万回生きたねこ」です。小さい頃は、「１００万回！？なにそれ！」という言葉のインパクトと、私の好きな「猫」が出てくる話、ということで興味を持ちました。(私の家ではずっと猫を飼っていて、今の猫で何代目かしら？)

「１００万回、死んで、生き返った猫が、好きな白い猫と出会って、もう生き返らなくなった話」と幼い私の頭は理解していて、むしろ移動図書館で借りてきてくれた母の方がこの話を好きだった思い出があります。

愛とか恋とか、あまーい言葉が苦手な私でも、この話は「自分よりも大切なもの」を見つけた猫の素敵な話なんだな～と素直に感動することが出来ます。白い猫が死んでしまったときの、主人公の猫の泣き顔の絵が必見です！！



１００万回生きたねこ
佐野洋子／作・絵 講談社

おバんと見せて!!

来館中の利用者さんのお弁当を見せてもらいました



ニックネーム：わたる
年齢：17歳(高校生)
来館目的：勉強と本を借りるため
お勧め本：「キケン！」有川浩
一言：母が作ってくれたので、父と同じお弁当だと思います

大宮一年生 盆栽村へ行く

さすが大宮。盆栽(NDC:627.8)に関する資料の貸出回数からも、盆栽への関心度の高さが伺えます。そこで、盆栽歴50年を自負する父を車の助手席に伴い、「大宮盆栽村」へと赴きました。

今や大都会と言っても過言ではない大宮に「村」が存在することにまず驚きですが、その盆栽村の何が凄いてその地名！以前からさいたま市にお住まいの方には何の驚きもない地名かもしれませんが、盆栽村が「盆栽町」にあるなんて、わかりやすいにも程があります。そんな直球すぎる地名に興奮しきりの私をよそ目に、ついさっきランチで食べた焼き鳥店の焼き鳥に対して、1本200円のネギマは高い！と憤慨していた父はと言えば、ひよろひよろした黒松の苗(8千円也)を片手に、足取り軽くレジへと向かったのでありました。

盆栽村に点在している盆栽園では、日本観光のついでにちょっと寄ってみました。というようなノリでは決してないであろう海外からの熱心な愛好家も訪れていて、世界に通ずる盆栽村の奥深さを改めて伺い知ることができた1日でした。

今回読んだ本
『大宮盆栽村クロニクル』宮田一也／著
アーカイブス出版



『伝説のチート軍師は肉まんの祖で親バカだった件』

時は三国時代。中国江東にて。
百万の軍勢を前にわずかのおびえも見せず、一人の軍師が熱弁をふるう…

「おわかりでしょうか。国家の大計というものは、目のつけどころがあるのです。局部的ないくさの勝ち負けだけで功を論じ、曹操の勢力が大きいうただけで降伏を考えてしまうような軽率な輩には、国家の大計を理解することはむずかしいでしょう」

〔渡辺仙州編訳『三国志 二 臥龍出塵の巻』(二〇〇五) 偕成社 二十一章「王戦」より〕

一、「創作における」孔明の「ス」さ
いやあ、しびれるなア。

誰のセリフかって？ かの有名な中国三国時代の天才軍師、諸葛孔明(諸葛亮)様ですよ。

主君である劉備に仕えて数々の戦を指揮し、弱小チームで大国「蜀」建国へこぎつけた名軍師。戦争をすれば、まさに無敵。敵の誰もが恐れ、味方の誰もが尊敬した、中国史上のスーパーマン……

二、史実ではどんな人？

……というのは実は、後世の人が「盛った」ハナシ。創作におけるイメージに反して、史実での孔明の本領は軍事ではないのです。

まー優秀な指揮官ではあったようですが、歴史書には「臨機応変の軍略は、彼の得手ではなかった」(『正史三国志 蜀書』)という記載も。派手に策を巡らすというよりは、堅実なタイプだったみたい。

孔明の本職は「政治家」。こっちの手腕の方は、誇張なしで神業だったとか。

三、肉まんの祖、孔明
堅実な軍略家。で、敏腕政治家。

これまで聞くと、なんか「おカタい」イメージになりますが、ところがどっこい、そうでもないのです。孔明の三つ目の顔が「発明家」。ジョブズもあやというイノベーションの人だったりもします。やつぱりリアルチート。

その発明品も、輸送機械(木牛流馬)というんですって。(から肉まん(中華まんじゅう)までという幅広さ。約千八百年前の孔明の発明品が、形を変えて現代のコンビニに並んでいるわけです。(※孔明の発明品については諸説あります))

四、「親バカ」孔明ババ

多才すぎて人間かどうか疑うレベルですが、そんな孔明にも意外な一面が。

孔明四十七歳にして授かった待望の息子、諸葛瞻(シヨカツセン)について孔明は兄に手紙を送るのですが、その内容が見事に「親バカ」。意識すると、

「うちの子八歳になるんだけど、めっちゃ可愛いしうっさいお利巧なの。こんな早くから才能があふれ出ていると、逆に出世できないんじゃないかなー、もう心配で」

……はいはい、って感じですね。幸せそうで何よりです。で、この息子が本当に「天才」だったのか、出世はできたのかというところ……

……そこはまあ、調べてみてください。ちょっと暗い話になるよ。

五、まとめ

神のごとき軍略……こそないが、緻密で堅実な戦運び。

一国をほとんど一から作り上げた、たくいまれなる政治手腕。現代に生きる発明を生み出した、柔軟な発想力。

そして、わが子を溺愛する「父」の顔。

伝説の「盛り」を取り払っても、孔明はやっぱすごい人でした。

【参考資料】

陳寿著 井波律子訳『正史三国志5 蜀書』(一九九三)筑摩書房

渡邊義浩『図解雑学 諸葛孔明』(二〇〇二)株式会社ナツメ社

渡辺仙州編訳『三国志 二 臥龍出塵の巻』(二〇〇五) 偕成社

新宿中村屋「中華まんの起源」(ウェブサイト)

視聴覚資料のご紹介

希望(ゆめ)のまち

さいたま市の歌「希望(ゆめ)のまち」は、さいたま市政令指定都市移行記念事業として、新しい都市イメージづくりを進めるために制作されました。全国より一般公募で寄せられた880点の中から選ばれた歌詞に、さいたま市出身であるゴダイゴのタケカワユキヒデさんが補作詞・作曲することで、平成15年4月に完成しました。

大宮区役所の開庁庁をお知らせするメロディーやJR 大宮駅、JR さいたま新都心駅の京浜東北線の発車メロディーにも使用されているので、大宮図書館をご利用の皆様も耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

大宮図書館では、「希望のまち」のCD や楽譜、「希望のまち」に合わせて振付けをした「ゆめダンス」のDVD を所蔵しております。もし、少しでもご興味がありましたら、この機会にご覧になってみませんか。



オンラインデータベース 使いこなし術



日本で一番売れている〇〇が知りたいと思ったことはありませんか？ そんな時はオンラインデータベース「日経テレコン21」の「POS ランキング」を使ってください。POS ランキングでは、様々な加工食品や家庭用品の販売数データを全国のスーパー等から毎日収集・集計し、最新週と最新月の販売数ランキングを作っています。日々情報を更新しているため、書籍では困難な最新の情報を入手することができます。

日経テレコン21では、他にも様々なことが調べられますので、ちょっとした話のネタ作り利用されるのはいかがでしょうか。

日経テレコン21で調べられる情報

- ・ **記事情報**
国内外の新聞や速報ニュースを検索できます。
- ・ **企業情報**
国内外の大手調査会社が提供する企業データベースを検索できます。
- ・ **業界、市場情報**
550業種の業界レポートや売れ筋ランキングを検索できます。
- ・ **人物、人事情報**
30万人以上の人物プロフィール、6000社以上の最新の人事 異動情報を収録しています。
- ・ **海外情報**
英語や中国語メディアのほか、現地紙の日本語版や日本語紙、日経各紙の英訳記事も収録しています。

おすすめ本3



山の声 一画文集一

辻まこと／著 ちくま文庫

山歩きが楽しい季節です。本書は、日本の山に高速道路やロープウェイが敷かれ始めたころ、詩人・画家である著者が失われゆく山の風景、山に生きる狩人や炭焼きの人々の日常を描きとめた画文集。淡々とした文章におかしみと哀愁が満ちています。



テキヤはどこからやってくるのか？ 一露店商いの近現代を辿る一

厚香苗／著 光文社新書

お祭りで活躍する「テキヤのおじさん」。彼らはどこからやってくるのでしょうか？その知られざる日常や歴史を紹介しつつ、いつのまにか民俗学や口承芸能の世界にまで誘われます。めくるめく知の冒険へようこそ。



夜行

森見登美彦／著 小学館

最後に怖い小説をひとつ。京都・鞍馬の火祭の夜、ひとりの女性の失踪とひとりの画家が遺した絵画をめぐる、久しぶりに集った仲間たちがそれぞれに語る奇妙な物語。長い夜、絵の中にとじこめられたような不安を味わってみてください。